Unit Test Virtualization with VMVM MD 輪講

博士後期課程2年 楊 嘉晨

大阪大学大学院コンピュータサイエンス専攻楠本研究室

2014年7月31日(木)

- 1 背景
 - 著者情報と出典
 - 研究背景と目的
 - JUnit でテストスイートの隔離実行
 - この研究の発想と貢献
- ② 動機の調査
- 3 提案手法の概要
- 4 実装
- 5 評価実験
- 6 結論と今後の課題

著者情報と出典

Authors and Publication

Unit Test Virtualization with VMVM

訳 VMVM でユニットテストの仮想化 出典 ICSE 2014, **ACM Distinguished Paper** 著者 **Jonathan Bell**(PhD 学生), Gail Kaiser 所属 Computer Science, Columbia Univ. Jonathan Bell 氏過去の研究¹²³



¹ Jonathan Bell, Nikhil Sarda, and Gail Kaiser. ``Chronicler: Lightweight Recording to Reproduce Field Failures''. In: Proceedings of the 2013 International Conference on Software Engineering. IEEE Press. 2013, pp. 362–371.

² Jonathan Bell, Swapneel Sheth, and Gail Kaiser. ``A Large-scale, Longitudinal Study of User Profiles in World of Warcraft". In: Proceedings of the 22nd International Conference on World Wide Web Companion. 2013, pp. 1175–1184.

³ Jonathan Bell, Swapneel Sheth, and Gail Kaiser. ``Secret Ninja Testing with HALO Software Engineering". In: Proceedings of the 4th International Workshop on Social Software Engineering. ACM. 2011, pp. 43–47•

Background and Goal of the Research

- - ・ TSM は NP 完全問題ですから近似法を利用
 - TSP は総実行時間が変わらない
 - テストの削減より障害を見逃す恐れがある
 - → 視点を変える:そもそもテストの何処が遅い?
- 大規模なプロジェクトにおいてテストケース を隔離して実行する傾向がある (後述)

目的 隔離したテストケースの総実行時間を短縮

Gregg Rothermel, Roland H Untch, et al. ``Test case prioritization: An empirical study". In: Software Maintenance, 1999.

Background and Goal of the Research

Test Suite Minimization (TSM)
テストスイート最小化

重複するテストケースを削減 カバレジに基づく研究が多い

大規模なプロジェクトにおいてテストケース を隔離して実行する傾向がある (後述)

isolated

的 隔離したテストケースの総実行時間を短縮

Gregg Rothermel, Roland H Untch, et al. ``Test case prioritization: An empirical study". In: Software Maintenance, 1999.

Background and Goal of the Research

テストスイートの総実行時間は長ーい (数週間・)
 → 従来最小化 (TSM) や優先付け (TSP) がある

Test Suite Prioritization (TSP)

テストスイート優先順位つけ

障害を起こしやすいテストケースを優先 修正された箇所に基づく研究が多い

大規模なプロジェクトにおいてテストケース を隔離して実行する傾向がある (後述)

isolated

り **隔離した**テストケースの総実行時間を**短縮**

Gregg Rothermel, Roland H Untch, et al. ``Test case prioritization: An empirical study". In: Software Maintenance, 1999.

Background and Goal of the Research

- - ・ TSM は NP 完全問題ですから近似法を利用
 - TSP は総実行時間が変わらない
 - テストの削減より障害を見逃す恐れがある
 - → 視点を変える:そもそもテストの何処が遅い?
- 大規模なプロジェクトにおいてテストケース を隔離して実行する傾向がある (後述)

目的 隔離したテストケースの総実行時間を短縮

(ICSM'99) Proceedings. IEEE International Conference on. IEEE. 1999, pp. 179–188• ← □ ト ← 壹 ト ← 壹 ト ← 壹 ト ← 壹 ト ← 壹 ト

Gregg Rothermel, Roland H Untch, et al. ``Test case prioritization: An empirical study". In: Software Maintenance, 1999.

Background and Goal of the Research

- - ・ TSM は NP 完全問題ですから近似法を利用
 - TSP は総実行時間が変わらない
 - テストの削減より障害を見逃す恐れがある
 - → 視点を変える:そもそもテストの何処が遅い?
- 大規模なプロジェクトにおいてテストケース isolated を隔離して実行する傾向がある (後述)

目的 **隔離した**テストケースの総実行時間を**短縮**

Gregg Rothermel, Roland H Untch, et al. ``Test case prioritization: An empirical study". In: Software Maintenance, 1999.

Background and Goal of the Research

- - ・ TSM は NP 完全問題ですから近似法を利用
 - TSP は総実行時間が変わらない
 - テストの削減より障害を見逃す恐れがある
 - → 視点を変える:そもそもテストの何処が遅い?
- 大規模なプロジェクトにおいてテストケース を隔離して実行する傾向がある (後述)

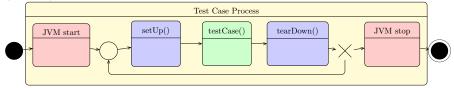
目的 **隔離した**テストケースの総実行時間を**短縮**

⁴Gregg Rothermel, Roland H Untch, et al. ``Test case prioritization: An empirical study". In: Software Maintenance, 1999.

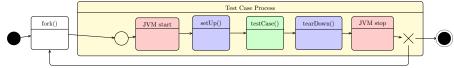
JUnit でテストケースの隔離実行

Isolated Test Suite in JUnit

(理想) 同じプロセス内で実行するテストスイート



(実際によくある) 隔離されたテストスイート

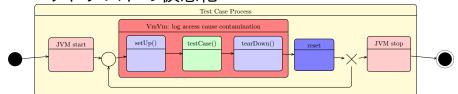


Ant/Maven 等の XML にオプションで切り替えられる

この研究の発想と貢献

Idea and Contribution of This Research

ユニットテストの仮想化



- 1,200 OSS Java プロジェクトを調べて、大規模のプロジェクトにテストを隔離して実行する傾向があることを判明した (動機の調査)
- ② ユニットテスト仮想化の手法を提案
- 3 Java で VmVm を実装して、障害を見逃す脅威を 避けた上、実行時間の短縮を評価
 - ・ 最大 97%(平均 62%) 性能の向上

- 1 背景
- ② 動機の調査
- 3 提案手法の概要
- 4 実装
- 5 評価実験
- 6 結論と今後の課題

動機の調査問題

Motivation Questions

- MQ1 開発者はテストケースの実行を**隔離させるか**?
- MQ2 何故開発者はテスト実行を隔離させるか?
- MQ3 隔離テストの**オーバーヘッド**はどのぐらい?

Ohloh で「年間活躍開発者数」上位 1,200 の OSS Java プロジェクト (内 Ant/Maven+JUnit のは 591)

	Min	Max	Avg	Std dev
$\overline{\mathrm{LOC}}$	268	$20,\!280.14k$	519.40k	1,515.48k
Active Devs	3.00	350.00	15.88	28.49
Age (Years)	0.17	16.76	5.33	3.24

MQ1: 開発者はテスト隔離実行するか

MQ1: Do Developers Isolate Their Tests?

# of Tests in Project	# of Proj Per Test	ects Creating New Processes
0-10 10-100 100-1000 >1000	24/71 81/235 97/238 38/47	(34%) (34%) (41%) (81%)
Lines of Code in Project	# of Proj Per Test	ects Creating New Processes
0-10k 10k-100k 100k-1m >1m	7/42 60/200 115/267 58/82	(17%) (30%) (43%) (71%)
All Projects	240/591	(41%)

MQ2: 隔離実行する原因は?

MQ2: Why Isolate Tests?

手書き tearDown は正確性を保証できない 文献⁵では Apache Commons CLI にほぼ 4 年が存続していたバグ が隔離テストすれば浮上 tearDown で状態復元が難しい場合がある

symposium and the 13th European conference on Foundations of software engineering. ACM. 2011; pp. 🖽 6–499 🚊 🕟 🔻 🚊 🦠

⁵Kivanç Muşlu, Bilge Soran, and Jochen Wuttke. ``Finding bugs by isolating unit tests". In: *Proceedings of the 19th ACM SIGSOFT*

MQ3: 隔離実行のオーバーヘッドは?

MQ3: The Overhead of Isolation

MQ1 に収集したプロジェクトの内、50 近くは変更せずに直接ビルド・実行できる

中から規模と性質を 考慮し 20 個を選び ました

太字は元々隔離を指 定したプロジェクト

Project	LOC (in k)	Test Classes	Overhead
Apache Ivy	305.99	119	342%
Apache Nutch	100.91	27	18%
Apache River	365.72	22	102%
Apache Tomcat	5692.45	292	42%
betterFORM	1114.14	127	377%
Bristlecone	16.52	4	3%
btrace	14.15	3	123%
Closure Compiler	467.57	223	888%
Commons Codec	17.99	46	407%
Commons IO	29.16	84	89%
Commons Validator	17.46	21	914%
FreeRapid Downloader	257.70	7	631%
gedcom4j	18.22	57	464%
JAXX	91.13	6	832%
Jetty	621.53	6	50%
JTor	15.07	7	1,133%
mkgmap	58.54	43	231%
Openfire	250.79	12	762%
Trove for Java	45.31	12	801%
upm	5.62	10	$4{,}153\%$
Average	475.30k	56.4	618%

MQ3: 隔離実行のオーバーヘッドは?

MQ3: The Overhead of Isolation

MQ1 に収集したプロジェクトの内、50 近くは変更せずに直接ビルド・実行できる

中から規模と性質を 考慮し 20 個を選び ました

太字は元々隔離を指 定したプロジェクト

Project	LOC (in k)	Test Classes	Overhead
Apache Ivy	305.99	119	
Apache Nutch		27	18%
Apache River	365.72	22	
Apache Tomcat	5692.45	292	42%
betterFORM	1114.14	127	
Bristlecone	16.52	4	3%
Closur Bristleco	ne:1447	均2	0 秒
Commons IO	29.16	84	89%
Commons Validator	17.46	21	914%
FreeRapid Downloader	257.70	7	631%
	18.22		464%
JAXX	91.13	6	832%
Jetty	621.53	6	
Tor mkgmap Openfire upm:	平均0	.15∄	少 ^{1,133%} 231% 762%
Trove for Java	45.31	12	801%
upm	5.62	10	4,153%
Average		56.4	618%

MQ3: 隔離実行のオーバーヘッドは?

MO3: The Overhead of Isolation

MQ1 に収集したプロジェクトの内、50 近くは変更せずに直接 ビルド・実行できる

中から規模と性質を 考慮し 20 個を選び ました

太字は元々隔離を指 定したプロジェクト

Project	LOC (in k)	Test Classes	Overhead
Apache Ivy	305.99	119	
Apache Nutch		27	18%
Apache River	365.72	22	
Apache Tomca	it 5692.45	292	42%
betterFORM	1114.14	127	
Bristlecone	16.52	4	3%
Commons Codec Commons IO Commons Valida FreeRapid Doynt gedcom4	ストケージ 時間が短	ス毎 いに	89% 89% 914% 631% 464%
JAXX Jet — / J	マッド	が大	こぎじゃ ル ^{1,1337} ル ²³¹⁷
openine .	m: 半均 0	.15 ₁₂	762%
Trove for Java		12 10	801% 4,153%
upm	5.62	10	4,10070

動機の調査問題への回答

Answers to Motivation Questions

- MQ1 開発者はテストケースの実行を隔離させるか
 - → 全体の 41%, 大規模の 81%(テスト数)71%(行数)
- MQ2 何故開発者はテスト実行を隔離させるか
 - ightarrow 手書き tearDown は正確性を保証できない、 状態復元が難しい場合がある
- MQ3 隔離テスト実行のオーバーヘッドは
 - → 平均 618%, 最大 4,153%

結論: 大規模のプロジェクトにテストを隔離して実 行する傾向がある、オーバーヘッドが大きい

- 1 背景
- ② 動機の調査
- ③ 提案手法の概要
- 4 実装
- 5 評価実験
- 6 結論と今後の課題

提案手法の流れ

Approach

静的検査と bytecode の書き換え

入力: class と JAR

bytecode を書き換え

出力:書き換えた

動的仮想マシン

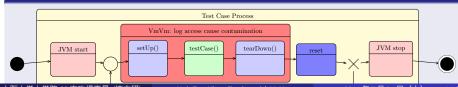


Image of the Approach

- 全メモリ領域
- 静的検査して安全 M。 と不明 M。に分ける
- ・テスト2を実行し、 前に汚染されたメモ リ領域をアクセス直 前に再度初期化

G

н

ı

D

E

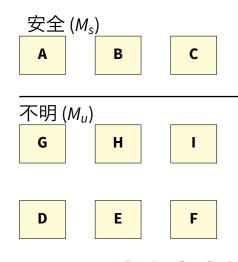
F

Α

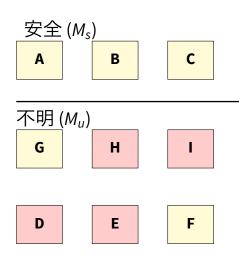
В

C

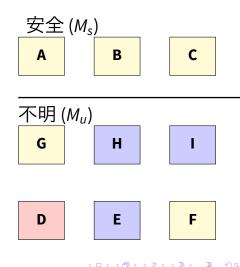
- 全メモリ領域
- 静的検査して安全 M_sと不明 M_u に分ける
- ・テスト2を実行し、 前に<mark>汚染された</mark>メモ リ領域をアクセス直 前に再度初期化



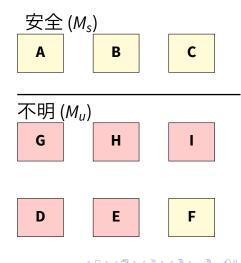
- 全メモリ領域
- 静的検査して安全 M_sと不明 M_u に分ける
- ・テスト1を実行して、 <mark>汚染された</mark>メモリ領 域を記録
- テスト2を実行し、 前に汚染されたメモ リ領域をアクセス直 前に再度初期化



- 全メモリ領域
- 静的検査して安全 M_sと不明 M_u に分ける
- ・テスト1を実行して、 <mark>汚染された</mark>メモリ領 域を記録
- ・テスト 2 を実行し、 前に<mark>汚染された</mark>メモ リ領域をアクセス直 前に再度初期化



- 全メモリ領域
- 静的検査して安全 M_sと不明 M_u に分ける
- ・テスト1を実行して、 <mark>汚染された</mark>メモリ領 域を記録
- ・テスト 2 を実行し、 前に<mark>汚染された</mark>メモ リ領域をアクセス直 前に再度初期化



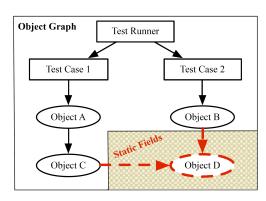
- 1 背景
- ② 動機の調査
- 3 提案手法の概要
- 4 実装
 - Java メモリ管理の背景
 - 静的検査
 - Bytecode の書き換え
 - テスト自動化との統合
- ⑤ 評価実験
- 6 結論と今後の課題

Java メモリ管理の背景

Java Memory Management Background

安全 (M_s) なメモリ: スタックのメモリ (ローカル変数、引数)

JUnit より保証: テストケース間にオブ ジェクトを渡しない



チェックする必要: クラスにある static フィルドのみ

静的検査

Offline Analysis

```
public class SafeStaticExample{
public static final String s = "abcd";
public static final int x = 5;
public static final int y = x * 3;
}
```

相当する bytecode のイメージ:

```
public class SafeStaticExample{
  public static void <clinit>(){
    SafeStaticExample.s = "abcd";
    SafeStaticExample.x = 5;
    SafeStaticExample.y = x * 3;
}
```

安全な static 変数:

- final immutable type
- 不可変型
- 値が定数のみ 依存する

安全性はクラス単 位で判定 一個以上の M_u フィル ドを持つとクラス全体

は M,, になる

Bytecode の書き換え (1/2)

Bytecode Instrumentation (1/2)

プログラムと外部ライブラリ (JRE と JUnit を除く) にある全クラスに対して、 M_u にあるクラスへの初期 化操作の bytecode を書き換え:

- 新しいインスタントを作る
- 3 クラスの static フィルドヘアクセス
- 4 リフレクションで直接初期化

Native コードからのアクセスに関しては、実験対象 (5 章) では 必要ない

Bytecode の書き換え (2/2)

Bytecode Instrumentation (2/2)

instrument

書き換えたbytecode で2つのことを行う:

- 初期化されたかをログに記録
 - クラス内に static フィルドを追加
 - VмVм の VirtualRuntime 内に
- ・前のテストで汚れたクラスを再度初期化 著者らは JRE の API を手作業で全部検証した
 - ・48 個の不安全なクラスを見つけた
 - VMVM のラッパーに置換し、copy-on-write 機能を実装

テスト自動化との統合

Test Automation Integration

ant との統合

他のツ<u>ール</u>

```
1 VirtualRuntime.reset();
```

maven との統合

8 </property></properties>

- 1 背景
- ② 動機の調査
- 3 提案手法の概要
- 4 実装
- 評価実験
 - 評価実験の設定
 - 実験 1: TSM と SIR での比較
 - 実験 2: プロセスレベルテスト隔離と比較
 - 手法の制限と妥当性への脅威
- ◎ 結論と今後の課題

評価実験の設定

Setups of Experimental Evaluations

比較対象: 1. TSM 手法 2. プロセスレベルテスト隔離 Reduction in Time(RT) Reduction in Fault-finding(RF) 評価指標: 1. 時間短縮 2. 欠陥発見損失

TSM 手法に関して既存研究6で評価された最も有効な 手法⁷を用いて、既存の評価対象 SIR⁸で行う

プロセスレベルテスト隔離に関して、MO3 で使われ ている 20 個のプロジェクトで評価

Ubuntu 12.04.1 LTS, Java 1.7.0 25, 4-core 2.66Ghz Xeon, 8GB RAM

⁶ Lingming Zhang et al. ``An empirical study of junit test-suite reduction". In: Software Reliability Engineering (ISSRE), 2011 IEEE 22nd International Symposium on, IEEE, 2011, pp. 170-179.

⁷ M Jean Harrold, Rajiv Gupta, and Mary Lou Soffa. ``A methodology for controlling the size of a test suite". In: ACM Transactions on Software Engineering and Methodology (TOSEM) 2.3 (1993), pp. 270-285.

⁸Hvunsook Do, Sebastian Elbaum, and Gregg Rothermel. ``Supporting controlled experimentation with testing techniques: An

実験 1: TSM と SIR での比較⁹

							-
	LOC	Test	TS	SM	VMVN	1 Combined	- Reduction in Time(RT) ・ ロキ 月日 ケラ タウィー 月日 トニーフ 「丁 中米
Application	(in k)	Classes	RS	RT	RT	RT	゚時間短縮に関して圧勝
Ant v1	25.83k	34	3%	4%	39%	40%	-
Ant v2	39.72k	52	0%	0%	36%	37%	Reduction in Fault-finding(RF)
Ant v3	39.80k	52	0%	1%	36%	37%	欠陥発見損失に関して、
Ant v4	61.85k	101	7%	4%	34%	37%	
Ant v5	63.48k	104	6%	11%	25%	26%	実験で両方共 0% が、
Ant v6	63.55k	105	6%	11%	26%	27%	
Ant v7	80.36k	150	11%	21%	28%	38%	既存研究 ⁹ より
Ant v8	80.42k	150	10%	18%	27%	37%	処計別九 より
JMeter v1	35.54k	23	8%	2%	42%	42%	TSM が 100% 場合がある
JMeter v2	35.17k	25	4%	1%	41%	42%	13M /3 100 /0 // 13 / 13 / 13
JMeter v3	39.29k	28	11%	5%	44%	48%	つまり本来あるべきの欠陥を
JMeter v4	40.38k	28	11%	5%	42%	47%	ノより本木のなべるの人間で
JMeter v5	43.12k	32	16%	8%	50%	52%	一つも見つけず
jtopas v1	1.90k	10	13%	34%	75%	77%	フロ兄フリリ
jtopas v2	2.03k	11	11%	31%	70%	76%	VmVm は常に 0%
jtopas v3	5.36k	18	17%	27%	48%	68%	VMVM は市に U%
xml-sec v1	18.30k	15	33%	22%	69%	73%	·
xml-sec v2	18.96k	15	33%	26%	79%	80%	VMVM と TSM を組み合わせ
xml-sec v3	16.86k	13	38%	19%	54%	55%	
Average	37.47k	51	12%	13%	46%	49%	て使うのも可能

 $^{{\}overset{9}{\sf Gregg}}\, {\sf Rothermel}, {\sf Mary Jean \, Harrold}, {\sf et \, al. \, ``An \, empirical \, study \, of \, the \, effects \, of \, minimization \, on \, the \, fault \, detection$

capabilities of test suites". In: Software Maintenance, 1998. Proceedings., International Conference on SEEE, 1998, pp. 34-43. 💆 🥠 🔾 🖯

プロセスレベルテスト隔離と比較

Study2: More Applications

		LOC	Age	# of	Tests	Over	head		False Positives	
Project	Revisions	(in k)		Classes	Methods	$\overline{\mathrm{VMVM}}$	Forking	RT	$\overline{\mathrm{VMVM}}$	No Isolation
Apache Ivy	1233	305.99	5.77	119	988	48%	342%	67%	0	52
Apache Nutch	1481	100.91	11.02	27	73	1%	18%	14%	0	C
Apache River	264	365.72	6.36	22	83	1%	102%	50%	0	C
Apache Tomcat	8537	5,692.45	12.36	292	1,734	2%	42%	28%	0	16
betterFORM	1940	1,114.14	3.68	127	680	40%	377%	71%	0	(
Bristlecone	149	16.52	5.94	4	39	6%	3%	-3%	0	(
btrace	326	14.15	5.52	3	16	3%	123%	54%	0	(
Closure Compiler	2296	467.57	3.85	223	7,949	174%	888%	72%	0	(
Commons Codec	1260	17.99	10.44	46	613	34%	407%	74%	0	(
Commons IO	961	29.16	6.19	84	1,022	1%	89%	47%	0	(
Commons Validator	269	17.46	6.19	21	202	81%	914%	82%	0	(
FreeRapid Downloader	1388	257.70	5.10	7	30	8%	631%	85%	0	(
gedcom4j	279	18.22	4.44	57	286	141%	464%	57%	0	(
JAXX	44	91.13	7.44	6	36	42%	832%	85%	0	(
Jetty	2349	621.53	15.11	6	24	3%	50%	31%	0	(
JTor	445	15.07	3.94	7	26	18%	1,133%	90%	0	(
mkgmap	1663	58.54	6.85	43	293	26%	231%	62%	0	(
Openfire	1726	250.79	6.44	12	33	14%	762%	87%	0	(
Trove for Java	193	45.31	11.86	12	179	27%	801%	86%	0	(
upm	323	5.62	7.94	10	34	16%	4,153%	97%	0	(
Average	1356.3	475.30	7.32	56.4	717	34%	618%	62%	0	3.4
Average (Isolated)	1739.3	743.16	8.86	58.7	419	12%	648%	56%	0	6.8
Average (Not Isolated)	973.3	207.43	5.79	54.1	1,015	57%	588%	68%	0	(

プロセスレベルテスト隔離と比較

Study2: More Applications

		LOC	Age	# of	f Tests	Over	head		False	Positives
Project	Revisions	(in k)) Classes	Methods	$\overline{\mathrm{VMVM}}$	Forking	RT	$\overline{\mathrm{VMVM}}$	No Isolation
Apache Ivy	1233	305.99	5.77	119	988	48%	342%	67%	0	52
Apache Nutch										
Apache River	264				83					
Apache Tomcat	8537									
		1,114.14	3.68							
Bristlecone	149	16.52	5.94	4	39	6%	3%	-3%	0	(
btrace		14.15				3%	123%	54%	. 0	
Closure Compile Bris	tlaca	nƥ I	⊋∓- <u>5</u> '	20⁄2₃	Fork	1746)遅く	727	こるこ	
Commons Code	ciego	114-99	\ 10.44	J /U,	I OF	$\mathbf{o}_{34\%}$	/	\ 74%	0 کی تم	
	よぐ 📛 1	2 0.1 6	→ .11	 8 4	1,0 22	- 44	80%	· 4.=	1 2	+>1
実行時間:	ラダン	J 17746,	╱╩	` フ21 ⁻	一 🎶		U14(嬉		、メよレハ
FreeRapid Downloader	1388					8%		85%		
		18.22	4.44							
JAXX	44		7.44				832%	85%		
Jetty		621.53			24					
	445	<u> 454</u> 7	03-3h	1 31	╮╭ ╱ ╁	╕╭╱╮	L1.133%	4 0%		
	upm	: K854	914	6, 3 (口行当	= <%/	よっつ	/Z%		
Openfire	1726	250.79		12		14%		87%		
Trove for Java			11.86		179	27%	801%	86%		
upm	323	5.62	7.94	10	34	16%	4,153%	97%	0	(
				56.4			618%			
Average (Isolated)			8.86	58.7	419		648%			
Average (Not Isolated)										

プロセスレベルテスト隔離と比較

Study2: More Applications

		LOC	Age	# of	Tests	Over	head		False	Positives
Project	Revisions	(in k)		Classes	Methods	$\overline{\mathrm{VMVM}}$	Forking	RT	VMVM	No Isolation
Apache Ivy	1233	305.99	5.77	119	988	48%	342%	67%	0	52
Apache Nutch									0	0
Apache River	264				83				0	C
Apache Tomcat	8537	5,692.45	12.36	292	1,734	2%	42%	28%	0	16
		1,114.14	3.68						0	0
	149		5.94	4		6%			0	C
btrace									0	0
Closure Coppilet 7 -	- 22 <u>96</u>	№ 467.5 <u>7</u>	3.85	1 -272	=1 1 ³⁰ 17 a	コマサン	7 #4	=	0	C
FPを起こ	~ らす	467.57 17.9	ork	21	计【方符	見器は	ノタル	米	0	0
Commons IO	961	29.16	6.19	84	1,022	13 1 3 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	89%	47%	0	C
Commons Validator	269		6.19			81%		82%	0	C
	1388			7		8%	631%	85%	0	C
	279	18.22	4.44						0	C
JAXX	44		7.44	6			832%	85%	0	C
Jetty	2349	621.53		6	24				0	C
				7		18%		90%	0	0
		58.54	6.85	43				62%	0	C
Openfire		250.79	6.44					87%	0	0
Trove for Java			11.86		179		801%	86%	0	C
upm			7.94				4,153%		0	C
		475.30		56.4			618%	62%	0	3.4
Average (Isolated)			8.86	58.7	419		648%		0	6.8
Average (Not Isolated)			5.79					68%	0	C

手法の制限と妥当性への脅威

Limitations and Threats to Validity

実験対象の選択は妥当であるか?

- → SIR はよく研究されている、SIR より大規模な対象も実験した
- → Ohloh で最も大きいプロジェクトを対象にした

利用できる場面はテスト間で準備の時間が長い場合

- → インタラクションに基づくテストに向いてないかも
- → TSM や TSP と組み合わせて利用できる

プログランキング言語に依存するか?

- → メモリ管理された言語かつユニットテスト環境があれば十分
- → 評価結果は Java 依存かも (隔離テストが必要な場面が多い)

VMVM の仮想マシンとしての隔離が十分であるか?

- → メモリ状態とユニットテストのみ
- → ファイルやデータベースへのアクセスも隔離する手法があれ ばいいが、主旨を超えている

- 1 背景
- ② 動機の調査
- 3 提案手法の概要
- 4 実装
- 5 評価実験
- ◎ 結論と今後の課題

結論と今後の課題

Conclusions and Future Work

結論

- 1,200 最も大きい Java プロジェクトを調べて、40%(内大規模の 81%) はテストケースを隔離実行していることを判明
- ユニットテスト仮想化手法を提案し、VMVMを 実装し、隔離性を維持した上、最大 97%(平均 62%)のテスト時間を短縮

今後の課題

- ・他の言語に対応
- → メモリ管理されない C や同じ JVM の Scala 等
 - ・実装に改善の余地がある

所感

- © 大規模なプロジェクトにテストケースを隔離して実行する傾向を見破った視点が鋭い
- ☺ 実装がわりと簡単ですが、効果が抜群
- ☺ 評価はしっかり、スケールは半ばない
- © さすが ICSE Distinguished Paper 感
- ② 書き方は大袈裟 (騙された!→っでもすごい!)
 - ② 軽量級仮想マシン → Bytecode 書き換え
 - ② 1,200(集まった) → 591(XML 解析できた) → 50 近く (直接実行できた) → 20(評価に使った)
- ② SIR で TSM との比較ですが、既存手法は隔離実 行を考慮してない
- ◎ 隔離実行は並列できるが、提案手法はできない